

(様式 1)

# 自己評価票

## 【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。

サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による入居者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。

この自己評価の結果を公表することにより、入居者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 21 年 3 月 8 日									
法人名	有限会社 三栄									
代表者(理事長)名	代表取締役 中尾 勉									
介護保険事業所番号	2	7	7	5	0	0	3	0	6	0
サービスの種類	○ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	○ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホームほほえみ									
事業所所在地	東大阪市岸田堂北町5-6									
記入担当者職・氏名	(職)管理者 (氏名) 中尾 信也									
連絡先電話番号	06-6728-3016									

## 自己評価項目構成

### ・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

### ・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### ・サービスの成果に関する項目

## 【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業員と協議しながら実施してください。

「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

入居者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個々の尊厳の尊重」、「家庭的な雰囲気の中での生活支援」、「地域とのふれあいと心豊かな生活」という運営理念を掲げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示しており、ミーティング等で、スタッフには周知している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、入居者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	町会のバス旅行や行事にも積極的に参加したり、定期的に公園の清掃を行うなどして、地域の中で暮らす大切さを理解し、実践している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の挨拶、気軽に声をかけあったりしているなかで、ホームの活動状況や予定などを報告している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者各自が自治会費、老人会費を払い、地域と交流し、活動にも参加している。 町会の日帰り旅行、敬老会、市民まつり、だんじり曳行など行事へも参加。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 入居者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	独居の高齢者さんなど、ホーム気軽に立ち寄ってもらえるように、声掛けしたり、お茶会を開いては交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解し、質の向上に向けた取り組みを少しずつではあるが行っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の暮らしぶりや、活動状況を報告している。また、委員からの意見などについても、精査しながら取り組むように努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的にこちらから機会を持つこともなく、実績としてはない。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一人ではあるが、家族とも話し合い、成年後見制度を活用している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員に研修の機会を与えておらず十分とはいえない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、同意を得ている。	
13	運営に関する入居者意見の反映  入居者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置しており、それ以外の大小様々な不満、意見についても、全職員が周知できるように記録しており、改善に向け努めている。	
14	家族等への報告  事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お手紙や写真を送り近況報告としている。	
15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置しており、それ以外の大小様々な不満、意見についても、全職員が周知できるように記録しており、改善に向け努めている。	
16	運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い意見交換を行っている以外にも、適時、職員の声にも耳を傾け、反映できるように努めている。	
17	柔軟な対応に向けた勤務調整  入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員を増員したり、状況に応じて、勤務調整を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	送別会など行い、入居者にも納得してもらうようには努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、必要に応じて、外部研修も参加してもらっている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のサービス事業者とも、定期的に交流の場を持ち、意見や情報の交換を行い、質の向上に努めている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	その都度、悩みや不満については耳を傾け、定期的に親睦会的な場を持っている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	やりがいを見出し、長所を伸ばしていけるように働きかけをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の悩みや不安について、同じ目線になって共有し、アセスメントに活かすよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の悩みや不安について、同じ目線になって共有し、アセスメントに活かすよう努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の状況を踏まえ、ニーズに即したサービス、社会資源の有効活用などを提案している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずは体験的に日中を一緒に過ごしたり、職員を自宅に派遣して、生活状況を観察したりして、無理なくサービスを利用できるように工夫している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>その人の人生・価値観に共感し、信頼関係を築くように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の想いを理解し、信頼関係を築くように努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族の関係やスタイルを尊重し、ホームに入っても、その関係が維持できるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	年賀状や電話などで連絡を取り、関係維持に努めている。		
31	入居者同士の関係の支援  入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に過ごす時間を持ち、団欒、レクリエーションなどで関わりを深めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お便りや電話などで、ホームの近況など報告している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>スタッフ側の都合を押し付けるのではなく、入居者本位に立った思いやりあるケアを実践している。意思疎通の困難な方についても、これまでの生活歴、習慣を考慮し、本人らしくあり続けるためのケアに努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生い立ちや生活歴について情報収集を行い、現在の状況の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>その人のペースを維持できるように、残存機能を活かせるように、把握に努めている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる入居者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>それぞれの課題・ニーズの把握に努め、その都度評価を行い、それを反映した介護計画の作成をしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一定期間をおいて、モニタリングを行い、その都度計画の見直しをおこなっている。 担当者会議にて、各関係者より意見をまとめ、計画に反映させている。</p>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、申し送り記録などにより情報を共有し、ケアの実践、計画の見直しをおこなっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が安心して生活ができるように、希望や必要とされることは、可能な限り取り入れながら、柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	十分とは言えないが、ボランティアさんの協力も得ながら支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	過去に本人の心身の状況や家族さんの意向などふまえ、デイサービスを利用したりしたこともある。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的な事例はないが、地域包括支援センターとも連携をとり、新たな入居相談や認知症高齢者の対応についての意見交換をおこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回、内科医による往診にて健康管理を行うと共に、必要に応じて専門医の受診ができるように支援を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、入居者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	適時、専門医に診察や相談できる環境をつくり支援に努めている。		
45 看護職との協働 入居者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師には定期的に訪問してもらっており、日々の健康管理、相談、医療機関との連携をとっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 入居者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	相互に情報交換を行い、早期退院に向けて連携している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を定め、本人・家族にも説明し同意を得ている。また、スタッフ全員にも共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の入居者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、看護師、職員、家族とも意思確認をしており、その都度変化に応じて対応できる準備を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	馴染みの家具、思い出の品などを持ち込み、環 境変化のダメージを抑えている。友人・家族の 協力してもらい、面会の機会を増やすなど、安 心感を与えるように努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	個人情報の漏洩など無ないように、記録を整備し 保管している。		
51 入居者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	主体的な活動、意思決定できるように努めてい る。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望にそ って支援している	その人のペースを優先しながら、主体的に活動 できるように見守りをしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望 む店に行けるように努めている	その日着たい服の希望を聞いたり、その人らし くあれるように支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは可能な限り入居者と職員が協力し、食事を楽しみあるものになっている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品や好き嫌いの物を把握し、普段から楽しめるように準備はしている。		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導して失敗を防いでいる。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定曜日に入浴日を決めているが、希望があれば、いつでも入浴してもらえるようにしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間など特に決まりごとではなく、入居者主体で過ごしてもらえるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や楽しみをもって生活してもらえるように、入居者が、主体的に過ごせるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、自身で管理してもらい、身の回りの物や、嗜好品の買物などに使用している。その際、金銭の収受についても間違いのないように管理している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物など気分転換も兼ね、希望に応じて支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の入居者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大型スーパーや普段行かない公園、喫茶店やその他飲食店など個別、他入居者とも出かけられるように支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話の取次ぎや、手紙の投函などの支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の決まりはなく、ゆっくりと寛いでもらえるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についても研修を行い、正しい理解に努めている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関口も鍵をかけていない。玄関にはセンサーが設置され、危険は防止されている。		
67	入居者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して入居者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間においても巡回を行い、安否確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態、生活サイクルに応じて、不自然でない形で危険を未然に回避できるように対応している。		
69	事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルのもと、職員には周知をはかっている。また、事故の原因、防止策について、話し合いの機会をもっている。		
70	急変や事故発生時の備え  入居者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	資料を用いて研修を行ったことはあるが、具体的に訓練を行ったことはない。 今後は、消防署による、普通救命講習会などの参加をしていくつもりである。		
71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難マニュアルの周知を行っているが、具体策を講じる必要あり。今後、地域の方々にも協力してもらえよう働きかけていく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その人らしく生活できるように、今ある心身の状況を踏まえながら、本人・家族の意向に添える支援策を話あっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ちょっとした異変や変化についても、申し送りを行い、全ての職員に情報が共有できるように、記録し確認サインを受けている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとにクスリの一覧表を作っており、職員にも周知をはかっている。また、副作用についても研修にて確認している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録にて便秘の有無を確認し、必要に応じてクスリを服用したり、食べ物や水分調節を行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを行うとともに、歯科医にも定期的に診察してもらい、状態の把握に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自入居者の食事摂取量は記録されている。水分摂取量の記録はないが、食事のときやそれ以外のときなどでも水分を摂るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	内部・外部研修を行い、意識の向上に努めている。また、感染症マニュアルを作成し、いつでも閲覧可能である。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	塩素系消毒液、アルコールなどで消毒、除菌を行い、常に衛生的に使用できるように努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  入居者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般住宅に良く見られるような、玄関まわりや、近隣とも調和のとれた建物となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からトイレ、浴室は近くにあるが、カーテンなどで仕切り、音や臭いなどに配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース的には十分ではないが、独りで居られる空間は確保している。また入居者同士、談話したりのんびりと過ごしてもらえるような居場所は確保している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、入居者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての入居者の 入居者の2/3くらいの 入居者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	入居者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	入居者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての入居者が 入居者の2/3くらいが 入居者の1/3くらいが ほとんどいない
91	入居者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての入居者が 入居者の2/3くらいが 入居者の1/3くらいが ほとんどいない
92	入居者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての入居者が 入居者の2/3くらいが 入居者の1/3くらいが ほとんどいない
93	入居者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての入居者が 入居者の2/3くらいが 入居者の1/3くらいが ほとんどいない
94	入居者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての入居者が 入居者の2/3くらいが 入居者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
99	職員から見て、入居者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての入居者が <input type="checkbox"/> 入居者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 入居者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
100	職員から見て、入居者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)